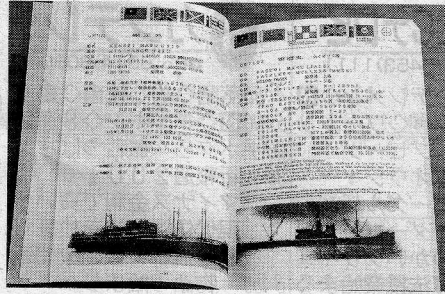


奪った外国船 兄乗せ沈んだ

神戸市垂水区の宮田幸彦さん(83)は、慕っていた長兄が太平洋戦争中に乗っていた船が拿捕(たほ)したものと分かり、外国籍の拿捕船の調査、資料収集に没頭し、15年がかりで『外国籍拿捕船要覧』をまとめました。296隻の拿捕船が掲載されています。(名越正治)

調査15年神戸宮田幸彦さん(83)

宮田さんは、瀬戸内海の明石海峡を望む高台に上がつて商業学校生の兄から船の話の聞くのが好きでした。



『外国籍拿捕船要覧』に掲載されている香澄丸(右)

「あのごっついのが〇〇丸、ちんまい(小さい)方は△△丸。煙突に特徴がある」。兄は通過する一隻一隻を解説し、白波をけ立てて行き交う船を日が沈むまで眺めました。

「あのころから、私も船に興味を持ちましたが、それを決定づけたのは兄の死でした」

日本船名に変え
商業学校を卒業し船会社

奇跡的救助も引き揚げ直前病死 若き夢と平和 守りたい



船の絵を背に語る宮田幸彦さん

証言

戦争

に就職した兄。終戦2カ月前の1945年5月末、米軍の機雷によって、乗っていた船が北九州の門司付近で沈没しますが、奇跡的に救助されました。

「香澄(かすみ)丸と名づけられていた船は、イギリス籍の『カスリーン・モラー』でした。4年前に日本軍が手に入れ、払い下げられて船会社が貨物船とし

て運航していました」と宮田さん。

太平洋戦争前の41年12月に米英に次ぐ海運国となった日本。開戦後は、中国沿岸や東南アジアの水域、港で1150隻以上の外国籍商船を捕獲、拿捕し、船を日本船名に変えました。米国や英国、中国籍をはじめ、日本と軍事同盟を結んでいたドイツ、イタリア国籍の船も拿捕し、戦争に動員しました。

「元ドイツ船の『丹後丸』は44年2月、米潜水艦の攻撃で、日本軍に従わされていた8000人のインドネシア義勇軍と34人の船員が死亡しました。多くの尊い死があり、無謀な戦争の終わりににはコメにいきつきます」

太平洋戦争中、制海・制空権を米軍に奪われ、日本の輸送船団は米軍の魚雷攻撃と砲撃で1万5518隻を超える民間船舶が撃沈され、6万609人の船員が亡くなりました。日本国内外から集めたコメや砂糖、塩、みそなどを積んだ輸送船が沈められたのは、「貴重な食糧物を太平洋に廃棄したようなものです」と宮田さんは憤りま

す。

「戦争で船とともに命を落とした船員一人ひとりには大切な家族がいました。『戦争の海』に戻し、命と平和をないがしろにする安倍自公政権は、海で亡くなった人たちも許さないでしょう」

苦勞を重ねた兄は3カ月後、日本人の引き揚げ船に乗務する直前に病死します。18歳の若さでした。

「船乗りはちょっとした大きな船に乗務したいものです。兄も将来は外国航路の船員を夢見ていました。夢を断ち切ったのは、まぎれもなくあの戦争です」

民間船員を徴用

安倍自公政権はいままた、緊急時のためと称して、常時運航可能な体制をつくり、人員・車両・物資を海上輸送できるように民間船員を予備自衛官として活用する方針を決定しました。これに、船員でつくる全日本海員組合(森田保己組合長)は「事実上の徴用。断固反対し、あらゆる活動を展開していく」と強く反発しています。

戦後、船舶に使うディーゼルエンジンメーカーで働いてきた宮田さん。鉛筆で書く船の絵も玄人はだしです。

8月15日の終戦を迎え、

「戦争で船とともに命を落とした船員一人ひとりには大切な家族がいました。『戦争の海』に戻し、命と平和をないがしろにする安倍自公政権は、海で亡くなった人たちも許さないでしょう」